

お知らせ

症例検討会のご案内

北九州市立医療センターでは、地域の医療従事者の方々と一緒に医療技術向上のため、下記のとおり症例検討会を実施しています。

症例検討会名・開催日	時間・場所
■乳腺テクニカルカンファレンス 毎月 第2・4月曜日開催	時間：18時～19時30分 場所：別館6階 講堂
乳腺外科・放射線科・病理診断科の医師、放射線技師、臨床検査技師、スタッフで症例検討会を行っています。	
■呼吸器カンファレンス 毎週 火曜日開催	時間：17時～18時 場所：別館6階 講堂
呼吸器内科・呼吸器外科・放射線科・病理診断科の医師、スタッフで症例検討会を行っています。	
■消化管カンファレンス 毎月 第3木曜日開催	時間：18時～19時30分 場所：別館6階 講堂
消化器内科・消化器外科・病理診断科の医師、スタッフで症例検討会を行っています。	
■周産期症例検討会 奇数月 第3水曜日開催	時間：19時～20時30分 場所：別館6階 講堂
産婦人科・小児科・小児外科の医師、スタッフで症例検討会を行っています。	

※日程は都合により変更・中止になる場合がございます。事前に医療連携室へご確認の上、ご参加いただければ幸いです。検討ご希望の症例がございましたら是非ご持参下さい。皆様の多数のご参加をお待ちしております。

研修会のご案内

日程	テーマ	講師
9月29日(木)	C型肝炎治療の現状 C型肝炎ウィルス治療における薬剤課の取り組み	内科部長 河野 聡 薬剤課主任 和田 佳菜子
10月27日(木)	冬が来る前に準備しよう感染症の知識と対策	総合診療科主任部長 眞柴 晃一 感染管理認定看護師 谷岡 直子 感染管理認定看護師 田中 裕之
11月29日(火)	脳卒中、心臓病そして認知症にも関連する 高血圧症の薬物療法と栄養指導	統括部長・循環器内科主任部長 浦部 由利 栄養管理係長 江淵 寿美
12月 8日(木)	心療内科医によるうつ病の話 ～うつ病は心の風邪なのか？～ あなたはどれくらい聞き上手？ ～話を聴くことについて考えてみる～	心療内科部長 福留 克行 臨床心理士 兵頭 憲二

▶ 場 所：北九州市立医療センター 別館6階講堂
▶ 時 間：18時30分～(1時間～1時間30分程度)

【問合せ先】
北九州市立医療センター 医療連携室 TEL.093-533-8660(直通)



第62号 ● 平成28年8月12日発行 発行人：北九州市立医療センター 〒802-0077 北九州市小倉北区馬場2丁目1-1 TEL.093-541-1831 FAX.093-533-8693
http://www.city.kitakyushu.lg.jp/page/hospital/center/



KMMCMC Kitakyushu Municipal Medical Center 2016 August news



北九州市立医療センターニュース

第62号



＜本院の基本理念＞
わたくしたちは公共的使命を自覚し
心のこもった最高最良の医療を
提供します



INDEX	
医療連携の会にあたって	1
医療連携室長を拝命して	2
トピックス・北九州市立医療センター DMAT「熊本地震に出勤して」	3
トピックス・北九州市立医療センター JMAT	4
院内紹介・消化器内科外来リニューアル	5
スポットライト・がん研有明病院での短期研修の経験	6
トピックス・患者満足度調査(外来)の結果について	7
人物クロースアップ・ブライTONの大歓喜	8
登録医のご紹介	9
医療連携室だより	10
お知らせ・症例検討会・研修会のご案内	



北九州市立医療センター院長
豊島 里志

医療連携の会にあたって

医療連携の会で伝えたかったことをあらためて文字にします。今市立病院が直面していることについてこの医療圏で医療を提供する立場の皆さんに知っておいていただきたいことがあります。2つの枠組みとして問題が提示されています。

第一は、全ての医療機関に関係する地域医療構想の策定という問題です。病床の内容と数が問題として議論されています。

第二に、これが市立病院に直接関係してくる、公立病院改革プランを策定するという問題です。特に、第二の問題については、期限が設定され、内容も指定されています。平成28年度末までに、4つの項目について問題を整理しなければなりません。

1. 地域医療構想を踏まえた役割の明確化
2. 経営の効率化
3. 再編・ネットワーク化
4. 経営形態の見直し

の4項目です。

北九州市では改革プラン策定に当たって広く意見を聞くという目的で市立病院あり方検討会議を開催しています。北九州市医師会をはじめ医療福祉の関係者、患者の立場の人々、あるいは公認会計士等からなる会議です。おおよそ2年をかけた会議で先に触れ



た4つの項目について議論いただいています。経営形態の見直しという観点から、病院の組織の在り方として現在の地方公営企業法の全部適用という運用から、地方独立行政法人化への転換を図るという方向性が提案され、この点についてはすでに、27年度末に北橋市長が議会でも法人化を目指すという考えを表明しています。

この4月からは市立病院の役割の明確化という問題を議論しているところです。現在私ども市立医療センターはがんセンターとしての機能、周産期母子医療センターとしての役割、生活習慣病に対する対応の3つを診療の大きな柱として、病院を整備し、機能しようと努力しています。北九州医療圏において、市立医療センターと市立八幡病院が、今のままの機能を果たすべきか、あるいは再編・ネットワークといったところにまで議論が及ぶのか、今年末までには議論の大枠が決まるものと考えています。

このような時点にある市立病院ですが、何といてもここ北九州医療圏にあって地域としての医療提供体制を支える一翼を担うべく努力していく覚悟であることに違いはありません。今後とも市立病院をご理解いただき、叱咤激励いただきますようお願い申し上げます。



北九州市立医療センター副院長
中野 徹

医療連携室長を拝命して

小野稔総括副院長の後任として4月から医療連携室長を拝命いたしました。今まで地域がん診療連携拠点病院と救急災害委員を担当してまいりましたが、この度地域医療機関の皆さまとの連携を任せられ、その責務の重大さに身が引き締まる思いです。

当院は2002年地域がん診療連携拠点病院に承認されるとともに医療連携室が設置され、また2011年に地域医療支援病院として承認され、医療連携室の役割も飛躍的に拡大しております。

連携室の業務としては、①地域かかりつけ医の先生とのスムーズな紹介・逆紹介、②がん・医療全般に対する患者さん・ご家族への相談と支援、③セカンドオピニオン外来の窓口、④入退院に際しての相談と支援、⑤当院施設、高額医療機器の共同利用推進、⑥救急医療への取り組み、⑦地域多職種医療従事者研修会の開催、⑧地域医療従事者との共同カンファランス開催、⑨広報活動（メール、ファックス、ホームページ、広報誌での情報発信）、⑩地域連携クリニカルパスの推進、⑪連携ネット北九州の推進、と多岐にわたります。

4月より地域医療連携推進担当係長（看護師）が増員となりました。佐藤美登里、播磨由美の2名が地域の先生方との前方、後方支援をよりスムーズに進めてまいります。患者さんご家族への相談支援は従来相談支援センターのみで行っていましたがこの度、がん看護外来を開設予定です。がん患者さんへのより専門的な支援が可能となります。入退院に際しての相談と支援は昨年4月に開設しました入退院センターで行っております。ゆったりとしたスペースと少ない待ち時間で対応できるようになりました。入院時から早期自宅退院に向けての支援について説明し、ご理解をいただいております。これには各医師会在宅医療・介護連携支援センターのご協力が必要です。また転院や介護施設への退院も早期より支援してまいります。これにも各医療機関・介護施設のご協力が必須

です。よろしくお願い申し上げます。病状悪化等で再入院必要時には早急に対応させていただきます。高額機器共同利用実績は増加しております。一人で来院される介助の必要な方は、あらかじめご連絡いただければ連携室等で対応する体制を作ります。救急や時間外診療の対応について①当院に受診歴のある患者さんは受け入れる。②機能別応需体制に参加している、小児科、産科、循環器科は受診歴問わず受け入れる。③地域医療機関の先生方から直接依頼がある場合はすべて受け入れる、の原則に変わりありません。日勤帯での救急車対応マニュアルは見直しを行いました。副院長、統括部長による円滑な救急車受け入れと専門科への振り分けを始めており、今後も小倉北消防署との定例協議で事例検討を行い、さらに改善に努めてまいります。毎月の地域多職種医療従事者研修会、各種医療従事者との共同カンファレンスも引き続き開催してまいります。内容につきましてはメール、ホームページ、広報誌にてご案内いたしますので、是非ご参加ください。

かかりつけの先生方との連携パス推進は地域がん診療連携拠点病院である当院に求められた国の政策であり、まだ不備な点もありますが改善を進めてまいりますのでご理解いただきますようお願いいたします。「連携ネット北九州」は運用を開始し2年経過しました。インターネットを介し画像検査予約、画像・報告書参照、血液・生化学検査結果参照、内視鏡検査報告書、病理検査報告書、処方箋が閲覧可能です。今後外来診療要約、退院要約、看護要約の開示予定です、参加施設は現在32施設ですがさらにご理解、ご参加いただけるよう広報に努めます。

今後も地域かかりつけ医の先生方との連携をますます深め、住民の皆さまを中心の切れ目ない連携を目標に取り組んでまいります。当院の連携室へのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

トピックス
Topics北九州市立医療センター DMAT
「熊本地震に出動して」

麻酔科 部長 武藤 官大

4月14日21時26分、熊本地震発生。我々北九州市立医療センターDMAT（武藤、城戸、牟田、水戸）は0時58分、出動要請を受け、3時08分、熊本に向けて出発した。当院のDMATにとって初の実戦出動だった。

4月15日早朝、熊本赤十字病院に到着すると既に70隊ものDMATが集まって活動していた。DMAT活動拠点本部長の指示を受け、我々は避難所の状況確認のために震源地の益城町に向かった。避難所では医療品が不足していたので、持っていた医療品を渡すととても喜ばれた。

その日の夜、倒壊の危険性がある益城町の東熊本病院に寝たきりの患者さん30名が取り残されていることが分かり、7隊でその病院に向かった。現場に着くと病院の玄関には大きな穴があき、建物にはヒビが入り、ライフライン（電気、ガス、水道）は途絶していた。全棟避難の方針となり、病院の玄関先で転院の調整を始めた。そんな中、4月16日1時25分、あの震度7の本震が起こった。我々は全員道路に投げ出されて転がった。私の隣にあった救急車が宙に浮き、駐車場のDMATカーが亀裂に沈んで



▲北九州市立医療センターDMAT



▲参集し、待機するDMAT

いった。転んで立てない私の目の前で、ヒビ割れた病院が大きく揺れた。その瞬間、死を覚悟した。幸い建物は持ちこたえてくれたが、ほとんどの患者さんがまだその建物の中にいた。大きな余震が続き、建物は頻繁に揺れた。一刻の猶予もなかった。消防隊が決死の覚悟で建物の中に突入、次々と患者さん達を外に運び出す。そしてDMATが運び出された患者さんを診察した。幸い患者さんに怪我はなかったが、余震はまだ続いていた。今いる場所も決して安全ではない。すぐに全避難となり、救急車や警察車両など、集められるだけの車を現場に集め、患者さんや病院職員など全員を車に乗せて急いで現場から退避した。益城町の道路は割れて隆起しており、危険な場所もあった。警察の誘導で慎重に車を走らせた。熊本市南区の東病院に一時的に避難させてもらった。東病院も患者さんを受け入れるような状況ではなかったが建物だけは無事だった。僕らは連れて来た患者さん達の転院先が決まるまで、1階のロビーを借りてほとんど寝ずに排泄や食事などの介助を行った。ここでは経験豊富な看護師さん達が活躍してくれた。4月16日の昼になり、やって来た後続のDMATチームに医療活動を引き継いで北九州への帰路についた。帰路の途中で複数の地元の人達にお礼を言われた。

これが北九州市立医療センターDMATチームにとって初めての災害活動だった。現場に行くまでは、実戦経験のない僕らがほんとに被災地の役に立てるのか不安だったが、それでも行ってみるとやれることはあった。今後高い確率で起こる南海トラフ大地震に向けて、災害時にもっと役に立てるように今後もさらに研鑽を積んでいきたい。



▲駐車場の亀裂

トピックス
Topics

北九州市立医療センター JMAT



消化器内科 林 康代

2016年4月14日、熊本県と大分県で相次いで地震が発生し、全国からDMATが熊本県と大分県に派遣されました。

急性期の災害医療を担当するDMATと入れ替わるようにして被災地に入り、現地の医療体制が回復するまでの間、地域医療を支える組織がJMAT (Japan Medical Association Team：日本医師会災害医療チーム) です。チームのメンバーは、医師1名、看護職員2名、事務職員1名を基本としますが、現地のニーズに応じて、歯科医師、薬剤師などの医療スタッフからも構成されます。活動内容は、避難者の健康管理、感染症対策や在宅患者の医療などです。

今回5月1日から5月3日まで、当院からも私と看護師3名（三宅、枇杷木、福島）の計4名でJMATを結成し、熊本市の被災地で医療活動を行ってまいりました。主な活動は、エコノミークラス症候群で知られている深部静脈血栓症（DVT）の検診です。熊本県内では地震直後から、DVTの検診チームが被災地で大規模な検診を行い、被災者のDVTに関するデータを集計していました。

我々は、臨床検査技師のチームと7ヶ所の被災地を巡回し、3日間で約100名の被災者検診を行いました。派遣された時期は、ライフラインが徐々に回復しつつありましたが、避難所には依然として多くの方が避難しており、過酷な生活を余儀なくされていました。エコノミークラス症候群のリスクが高くなるのは、基礎疾患のある人、長期臥床者、高齢者、また車中泊避難者なので、被災者から丁寧に問診をとり、リスクの高い人には予防的にス



▲(避難所にて)DVTのリスクのある人にストッキング配布

トッキングを配布し、無症状でも検査で治療が必要だと判断した場合は、専門施設を紹介しました。エコノミークラス症候群は、避難日数が長くなればなるほどリスクが高まるため、避難所では定期的な検査も行われていました。

熊本地震のDVTの検診チームは、4月末の発足直後から6月16日までに2,023名に検診を行い、病院受診の結果9.1%に当たる185人にDVTが確認されたとのことです。今回の検診で集計されたデータは、今後予想される南海トラフ巨大地震や都市直下型地震などにおけるDVT予防の在り方を考える上で大いに役立つものと思われます。

2泊3日という短い期間ではありましたが、我々はJMATの一員として、余震が続く被災地や被災者の方々の生活を実際に見て感じ、現場で活動を行ってまいりました。震災後で情報が錯綜する中、現場で必要とされる医療を把握するために、医療者間で情報を共有することは大切であり、限られた医療資源を有効に利用し、適切な医療を提供することがどんなに困難でまた重要であるかを認識しました。

全国各地から、被災地に応援に来ていた医療スタッフは、皆熱い気持ちを持っており、中には東日本大震災の被災者もいて、震災で培った診療のノウハウを熊本地震で生かしておられたことがとても印象的でした。

JMATの一員として経験したことが今後の災害医療や日常の診療に少しでもつながるように、これからも精進してまいります。



▲(避難所にて)DVTのポータブルエコー検査

院内紹介

消化器内科外来リニューアル



消化器内科 主任部長 秋穂 裕唯

2001年から開始した内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)は、当科で最も成熟した治療法となり、2015年12月までに胃のESD(腺腫を含む)は1,601例、食道のESDは334例、大腸のESDは587例を経験し、症例数は九州トップクラスとなりました。また消化管、胆膵悪性腫瘍の化学療法を年間100例以上行い、炎症性腸疾患(IBD)は外来を中心に200人以上の患者さんを診ています。

内視鏡検査数が増加し続けたため、2013年7月に内視鏡室は拡張移転しスタッフを増員しました。2014年より膵臓専門医が加わり超音波内視鏡下穿刺吸引生検を導入し、膵疾患やリンパ腫、転移性腫瘍の診断精度が向上しました。2015年の検査件数は上部5,979例、下部2,259例、合計8,238例と前年より1,000例以上増えました。また、年間外来患者数も前年より3,000人以上増え、今までの病床数と外来の規模では回らなくなってきました。

わずか24床の病床は2015年に30床に増床。それでも入院患者は一日平均37人、多いときは60人近くになり、緊急入院だけでなく予定入院もできないことがしばしばあります。本年度からは3か所の病棟に分散してはいま

すが、36床に増床しました。

外来患者数は一日平均70.2人(紹介率86.3%)と増加し、診察室も手狭で看護師を中心に疲弊していました。そこで、内視鏡室と消化器内科外来を一体化するべく、本年5月23日に内視鏡室の隣に消化器内科外来を拡張移転しました。診察室が広がっただけでなく、消化器の診療・検査が同じフロアで行えるようになり動線が短くなりました。

消化器内科・内視鏡室を合わせたメンバーは医師が、常勤6名、レジデント5名、看護師は常勤4名、非常勤5名、パート3名、洗浄員2名、事務員3名です。

内視鏡室はESDだけでなく食道静脈瘤の治療や内視鏡的乳頭切開術(EST)、ステント挿入など午後からの内視鏡治療が増え続けているため、まだまだ看護師数を増やさないと回らないのが現状です。

外来のリニューアルにより、スタッフ一同日々研鑽を積んでいき、今後も積極的に地域医療に貢献していく所存でございます。

これからも消化器内科をよろしくお願いいたします。



がん研有明病院での短期研修の経験



外科 部長 山方 伸茂

主に大腸外科を担当させていただいております山方伸茂です。2015年10月より1か月間、当院の留学制度を利用し短期研修をさせていただきましたのでご報告します。私が研修させていただいたのは東京都のがん研有明病院大腸外科です。がん研有明病院は日本で屈指の手術症例数を誇る病院で、大腸外科だけで年間1,000例近くの手術が行われています。こちらの施設で主に大腸外科の手術見学・カンファレンス参加をさせていただきました。

がん研有明病院は全国学会でお馴染みの先生方が多数いらっしゃる病院です。そのご高名な先生方の手術を最初から最後まで生で見学させていただく機会は非常に貴重な経験となりました。全部で20室ある手術室は毎日フル稼働し、定型的手術の多くは標準的な手術時間より大幅に短い時間で終わっていきます。手術見学では多くの腹腔鏡手術を見せていただきました。カメラで映る術野以外にも手元の動き・デバイスの使い方の工夫やレジデントの先生に指導される様子を見ることで実際の剥離操作の留意点など細かなところも学ばせていた

だきました。また他院から紹介されてくる困難症例の手術が日常的に行われており、難手術を成し遂げる技術力に圧倒されました。

カンファレンスは消化器外科全体(食道外科、胃外科、肝胆膵外科も含む)の術前術後カンファレンスと大腸外科のカンファレンスに参加させていただきました。大腸外科カンファレンスでは腫瘍内科・消化器内科とも連携し長時間に渡り、一つひとつの症例を検討していきます。他院から紹介された高度進行がんや再発症例への治療方針の検討プロセスは今後の診療に生かせる貴重な経験となったと思います。またがん研有明病院大腸外科の特色は進行下部直腸がんに対する術前化学放射線療法を積極的に行っている点で、当院とはまた治療方針の違いがあり、それをすぐ当院に取り入れるというわけではありませんが大変勉強になりました。

今回の研修で得られた知識・経験を活かし日々診療の質の向上に努めてまいりたいと思います。引き続き患者さんのご紹介よろしくお願いします。



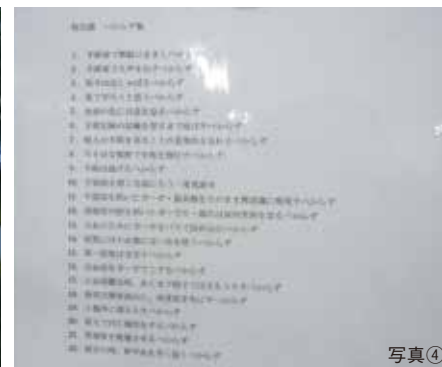
写真①



写真③



写真②



写真④

写真①／写真②
がん研有明病院は病床数700床、20室ある手術室で年間約10,000例の手術が行われています
写真③
近くに東京ビッグサイトがあり、東京モーターショーで賑わっていました
写真④
各手術室には第5代院長で消化器外科の権威、梶谷環先生のべからず集が貼ってあります

Topics | トピックス |

患者満足度調査(外来)の結果について

外来委員会委員長 眞柴 晃一

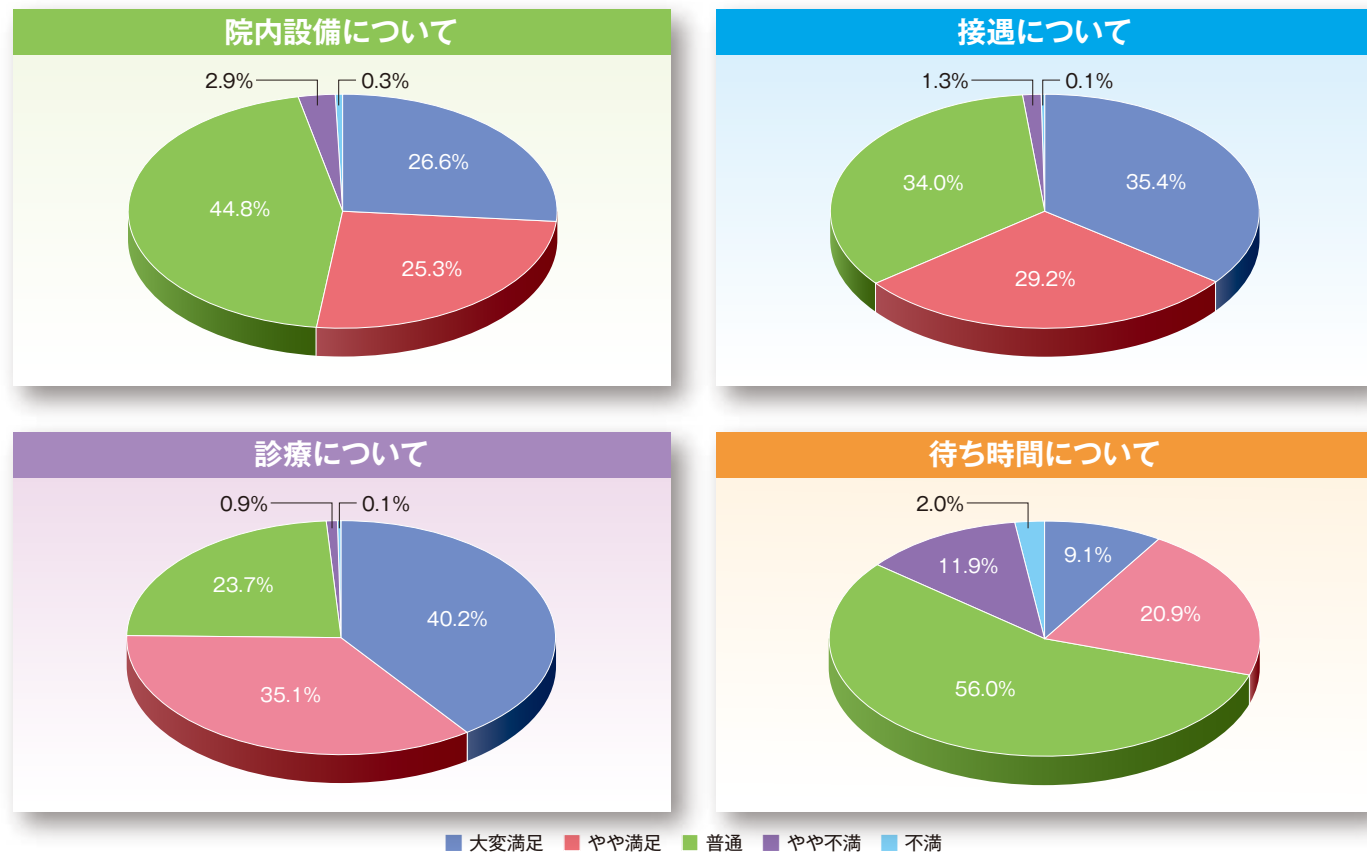


患者さんの意見・要望を把握し、医療サービスの向上など今後の病院づくりに役立てるため、外来受診された患者さんにご協力いただき、満足度のアンケート調査を実施いたしましたので、その集計結果についてご報告いたします。

1 アンケート実施概要

- (1) 実施時期 平成28年3月7日～11日
- (2) 調査対象 実施時期に来院された初診・再診外来患者さん 300人
- (3) 調査概要 院内設備、接遇、診療、待ち時間について30項目を5段階評価
(大変満足5点、やや満足4点、普通3点、やや不満2点、不満1点)で無記名アンケートを実施
- (4) 回答数 231件(回収率77%)
- (5) 総合評価点数 初診：80.8点(昨年比-1.7点) 再診：79.1点(昨年比-0.9点)

2 集計結果 (初診、再診の各項目のポイント合計から評価ごとに按分したもの)



3 調査結果を踏まえて

接遇や診療の満足度は一定の評価を得ていますが、院内設備や待ち時間など、いくつか改善すべき課題があるといえます。個別の自由意見では駐車場の利便性や待ち時間など多くのご意見をいただきました。

外来患者さんの総数は増加の一途をたどっていますが、調査結果で明らかになった課題の解決に向け、調査を実施させていただいた外来委員会はもちろん、院内全体で課題を共有し、検討を重ね、対応を実行してまいります。

外来委員会では、今後もこのアンケート調査の結果やご意見を踏まえ、医療サービスのますますの向上に努めていきたいと考えています。最後になりましたが、ご協力いただきました皆様方に心から御礼申し上げます。



ブライトンの大歓喜 ～ラグビーワールドカップ観戦記～

副院長
大野 裕樹



いろんな体格の人がいろんな役割を果たす15人のスポーツ:ラグビーを私は大好きです。その根底に流れるのは“One for All, All for One”の自己犠牲の精神です。中学1年の体育の授業でラグビーに目覚め、高校に行ったら絶対にラグビーをすると心に決めていました。高校入学後4日目にラグビー部に入ったことを覚えています。入学後は学業そっちのけで遮二無二練習し、神様のような存在だった3年生が5月の大会の初戦で敗れた後はさらにヒートアップしました。2年生になって市新人戦準優勝、県新人戦優勝、3年生で県高校総体予選優勝の戦績を収め、九州大会に2回出場しました。大学入学後もラグビーを続け、最終学年で九大史上初めて九州山口の医学生体育大会で優勝できました。引退後ラグビーを遊びではやっていたものの私はラグビーウォッチャーとなっていくのでした。

2011年9月ニュージーランド(NZL)で開催された第7回ラグビーワールドカップ(RWC)に行きました。NZLは国中がどこもかしこもラグビー一色で、こんな国に住んでみたいと思いました。ラグビー日本代表(通称ジャパン)の試合は対NZL戦、対トンガ戦を見ましたが二連敗し失意の底で帰国しました。結局この大会のジャパンの戦績は1分3敗でした。実は1987年の第1回からRWCに出場し続けているジャパンの総合戦績は1勝2分21敗です。RWCに出られるレベルにはあるけれどもその中では最弱小国でした。



▲試合前：家族で



▶ 試合後：
エディー・ジョーンズと
子供たち

2015年9月19日、この日は第8回RWCのジャパン対南アフリカ(南ア)でした。私は家族とともにロンドンの南80kmにあるブライトンという海辺の町にいました。南アのジャージーを着て国旗を顔にペイントした白人が町中に溢れていました。私たちがジャパンのジャージーに着替えると次々にその人たちが寄ってきて「いい試合しよう」と握手してきました。「あなた方もね」と応えましたが、かなりの余裕をかまされました。強豪南アは世界ランキング3位のラグビージャイアントで文字通り体格が世界一大きく腕力(かいなぢから)がとても強いチームです。私を含め誰もジャパンが勝るとは全く思っていませんでした。

試合は前半予想外にジャパンが健闘します。ジャパンが突き放されそうになりながらうじてくっていく展開でした。前半終了時点10-12で「ひょっとすると」との思いもありましたがこれまでのジャパンの負けパターンは前半競っても後半突き放されるものでした。いつも後半の時間が進むにつれて失望していました。でも今回は明らかに違う、後半もすごいスタミナで互角以上に渡り合っていました。後半28分の五郎丸のトライはフォワード・バックス一体となった攻撃が完璧にはまった美しいものでした。そこでジャパンは29-29の同点に追いつき、私は座っていられなくなり通路に出て立って応援しました。会場全体が「ジャパン」コールの連続で観客すべてがジャパンの味方のような異様な雰囲気でした。そして押せ押せのジャパンは最後の最後で監督であるエディー・ジョーンズの指示を聞かずスクラムを選択し逆転勝利のトライをあげたのでした。私たち日本人は喜びを爆発させました、50年生きてきて自分がこんなに飛び跳ねるとは。まさに日本ラグビーの歴史の転換点となり、これまでのワールドカップで行われた数百試合の中で間違いなく一番のアップセット(番狂わせ)であり、また100年以上の日本ラグビー史上ベストゲームでした。これを現場で目の当たりにした私たちは本当に本当に幸運でした。南アの人たちは全く予想もしなかった敗戦後に私たちを含めた日本人をとて祝福して、素晴らしいスポーツマンシップを見せてくれました。地元の人たちの祝福も帰りの電車から地下鉄の中、エスカレーター、ホテルの前まで続きました。その夜興奮して眠れなかったのは言うまでもありません。

2019年第9回RWCは日本で開催されます。より多く観戦ができそうなので今からとても楽しみです。私たちはこれからもジャパンを応援し続けます。

医療法人 みちおかレディースクリニック

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00~12:00	○	○	○	○	○	○	×
14:30~17:00	○	○	×	○	○	×	×

※金曜日のみ19:00まで

アピールポイント

分娩のできる産婦人科クリニックとして、安心の医療と最上級の入院生活の提供を目指し、平成15年に新規開院しました。早いもので13年が経ち、おかげさまで開院以来の総分娩数は約4,800例になりました。最近では年間430例前後の分娩を扱わせていただいております。

市立医療センターへの一言

特に産婦人科には大変お世話になっております。全国で産科医療の崩壊が叫ばれている昨今、北九州市はかなり恵まれた医療環境にあると日々感じております。それもひとえに北九州市立医療センターをはじめ、基幹病院の先生方のご努力の賜物と本当に感謝しております。



医療法人 中村正内科循環器科クリニック

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00~12:30	○	○	○	○	○	○	×
14:30~18:00	○	○	×	○	○	×	×

※火曜日は20:00まで診療

アピールポイント

平成14年に開院してからようやく14年になるところです。循環器科の疾患を中心として、内科全般を診ております。14年の経過で、受診される方の高齢化を実感しております。一診療所の能力ではカバーしきれないことがますます増えています。近隣の病院、診療所の情報をできる限り活用し、質の高い医療を受けられるように努めております。

市立医療センターへの一言

大きな病院が多数集まる小倉北区では病診連携がしやすく、中でも北九州市立医療センターは当院から一直線で、バス停3つ先という近い立地もあり、必然的にお世話になることが多くなっております。問題ないことを確かめることが目的の場合でも、丁寧にしっかり診療していただけるので気楽に紹介することが増えており、感謝しております。



医療連携室だより

残暑の候、ますますご盛栄のこととお慶び申し上げます。
平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

7月12日に開催いたしました医療連携の会では、400名を超える地域医療機関、関係諸機関の皆様にご出席いただき、無事盛会のうちに終了することができました。心より御礼申し上げます。

日頃は、お電話だけのやり取りが多くなっておりますが、懇親会では実際にご挨拶させていただきさまざまな情報交換もでき、これからの連携業務に役立つものとなりました。

また地域の基幹病院として今後も皆様方のご要望にお応え
できるよう努力していかねばと身の引き締まる思いでした。

引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。

お知らせ

—耳鼻科外来紹介制導入について—

平成28年9月1日より耳鼻科外来は紹介制となります。皆様方のご理解とご協力をお願いいたします。

—画像診断依頼時間枠の増設について—

平成28年8月1日(月)より、CT検査・骨密度検査の時間枠を下図のように追加いたしました。ますますのご利用をよろしくお願いいたします。

地域医療連携推進担当係長 佐藤 美登里

CT検査

CT検査	月	火	水	木	金
9:30~10:00	○	○	○	○	○
10:00~10:30	○	○	○	○	○
10:30~11:00	○	○	○	○	○
11:00~11:30	○	○	○	○	○
14:00~14:30	○	○	○	○	○
14:30~15:00	○	○	○	○	○
15:00~15:30	○	○	○	○	○
15:30~16:00	○	○	○	○	○

● 骨密度検査

	骨密度検査	月	火	水	木	金
	11:00~11:30	○	○	○	○	○
	14:30~15:00	○	○	○	○	○
	15:00~15:30	○	○	○	○	○
	15:30~16:00	○	○	○	○	○

[医療連携室]

TEL 093-533-8660(直通) FAX 093-533-8718 <http://www.city.kitakyushu.lg.jp/page/hospital/center/>
E-mail:byou-iryuu-renkei@city.kitakyushu.lg.jp ※患者さんのご紹介は、E-mailでは受付けておりません。

編集
後記

今回は4月14日に生じた熊本地震に出動した当院DMAT、JMATの活動について、リーダーに報告記事を書いてもらいました。今後も復興に向けての継続的な支援とともに、チームとしてはこれからも起こるであろう災害を想定しての継続的な訓練が大切と思われます。

7月12日の医療連携の会には多数ご参加いただき誠にありがとうございました。地域医療構想及び公立病院改革プランの策定がすすめられています、いずれにしても冒頭の院長の言葉にありますように、北九州医療圏における医療の一翼をしっかりと担って参ります。今後ともよろしく願ひいたします。（山野）

[表紙写真について]

前身の北九州市立小倉病院の名が刻まれた碑の前で、当院の初期研修医（1年次6名、2年次3名）の皆さんです。各々のプログラムに沿って診療各科を、また地域医療の現場で日々研修中です。専門医制度が変わろうとしています、医療人としての基本的な心と笑顔を忘れずに歩んでいってほしいものです。応援しています。

広報委員会「輪」編集委員

山野裕二郎 山方伸茂 山本智美 高瀬真弓 佐藤美登里
高見将彦 天野健司 中山俊輔